第 6 回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ
平成 30 年 12 月 11 日（火）
【議事要旨】

【開催日時】
・平成 30 年 12 月 11 日（火）　14:00～17:30

【開催場所】
・土木学会　講堂

【出席者】
・委員 9 名（流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会）
小池委員長、奥村委員、谷口委員、戸田委員、市川委員、清水委員、立川委員、田中（尚）委員、田中（規）委員
・パネリスト 8 名
小池先生（ファシリテータ）、立川先生、奥村先生、谷口先生、阪本先生、大原研究員、林係長、金子副主幹
・参加者総計 75 名（委員、パネリスト含む）

【議事内容】
1. 開会挨拶及び趣旨説明

2. 基調講演
◆「平成 30 年 7 月豪雨災害　岡山県倉敷市における避難行動」
兵庫県立大学　准教授　阪本 真由美

◆「滋賀県における水害リスク情報を活用した新たなまちづくり手法の減災効果及び課題の動的変化」
土木研究所　水災害・リスクマネジメント国際センター　主任研究員　大原 美保

◆「奈良県大和川流域おける総合治水推進条例について」
奈良県　県土マネジメント部　河川課　係長　林 祐樹

3. パネルディスカッション
（1）話題提供
◆「平成 30 年 7 月豪雨における土砂災害」
国土交通省　砂防部　砂防計画課　砂防計画調整官　國友 優

◆「最近の都市施策状況」
国土交通省　都市局　都市計画課　施設計画調整官　筒井 祐治
国土交通省　都市局　都市安全課都市防災対策企画室　室長　武井 利行

◆「平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた都市浸水対策」
国土交通省　水管理・国土保全局　下水道部　流域管理官　三宮 武

（2）パネルディスカッション

＜主な議論＞

・自治体において土木の専門職員がいなくても、市民の皆さんと一緒にやっていける社会を作らないといけない。
・滋賀県内では土木の職員がいない市町も存在するが、土木部局、防災部局の人と一体となったワーキングなどにより検討していくことが必要。土木分野の専門職員がいない市町では、取り組みが難しい実態もある。
・母校の同級生のつながり等、学校単位のネットワークを活用し、まちづくりを行うことにより多層的で多面的な防災につながることもある。
・国土交通省の下水道部局は市町村とつながりがあり、そういった国と市町村とつながりを活用していくことが必要である。
・東日本大震災の津波防災地域づくり法を根拠に、津波防災とまちづくりを一体で考えている一方で、河川分野においては、洪水災害とまちづくりを一緒に考える法体系になっていないように思える。理念法でもいいので、国や県などの自治体、河川や農業といった分野にとらわれない法律の整備が必要ではないか。
・これまでの行政の取組みと合わせ、アメリカで導入されている水害保険を導入するなど、新しい法律や施策を展開の整備を行い、土地利用誘導策として地域の危険度を認識してもらう方策も必要ではないか。
・規制をかけるプロセスで住民に入っていって心を持ち上げる、規制をかけるから住民が立ち上がるという事例を紹介いただいた。一方で、施策を継続するためには経済原理を導入しないと続かない。保険の導入がよいかはわからないが、今後は人口減少の中では規制行政ばかりではなく、回す仕組みを社会に実装していくことも考えていく必要がある。

＜パネリストからの一言＞

・身近に感じられる 10 年、20 年のインターバルのハザードマッピングも大事。
・真備の河川事業に関わって思ったことは、スピード感を持って対応していくことが必要。
・水害保険の推進は、県レベルでは難しい。多様な施策を行うことで危険地区に住まないことにつながっていくであろう。こういった取組みが進むことを期待したい。
・真備町の事例では、たくさん避難をしてもらったところもあった。そういう良い取組みに注目し、そこからノウハウを抽出し今後の防災に役立てていく必要がある。
・水害リスクの高い地域どうしが集まって情報交換も必要ではないか。話し合いの場にもレベル

があり、研究者どうし、地区どうしなど色々なレベルの話し合いの場が展開されるとやる気につながるのではないか。

＜総括＞

・人が動くには経済的アプローチ、心理的アプローチも必要であり、行政が間に入り住民とともに議論する滋賀県の事例を紹介いただいた。
・人が動くということはどういうことか、考える必要がある。人が動くことは、避難につながり、また計画的な土地の使い方を考え、危険区域ということを皆が理解できるようになる。その部分を評価しないといけないとの意見があった。
・多様で多層な側面があり、そこは学びあうことが必要で「水害リスクサミット」みたいなものをやりながら学びを増やしていく提案もあった。
・このワークショップは、計画と水災害分野の垣根を越えた議論ができ非常に刺激的で色々なご意見を伺える場である。
・本日は、非常に熱心にご討議、大変貴重な基調講演を頂いた。大変良い議論ができた。皆さんのご協力に感謝する。

4. 閉会